

建築工事施工計画報告書

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、下記のとおり建築工事施工計画を報告します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

A I 確認検査センター株式会社

代表となる工事監理者 住所 電話 ()
会社名 ()級建築士事務所()登録第()号
氏名 ()級 建築 士()登録第()号

工事施工者 住所 電話 ()
会社名 建設業の許可 大臣・知事 第()号
氏名

(法人にあつては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者氏名 電話 ()

記

(1) 工事現場	①名称			棟	③工事の種類	新築・増築・改築	
	②所在地	区 市					
(2) 建築主	氏名			住所	電話 ()		
(3) 代表となる設計者	氏名			所属会社	電話 ()		
(4) 構造設計者	氏名			所属会社	電話 ()		
(5) 現場代理人(所長)	氏名			現場事務所	電話 ()		
(6) 品質管理責任者	氏名			所属会社	電話 ()		
(7) 階数	地上 階・地下 階	塔屋 階	(8) 建築面積	m ²	(9) 延べ面積	m ²	
(10) 高さ	軒高 m	最高 m	(11) 確認済証交付機関				
(12) 確認・計画通知、年月日及び番号	年 月 日		第	号			
(13) 計画変更年月日及び番号	年 月 日		第	号(変更内容は別紙)			
(14) 構造計算の方法	(X)ルート1-()・ルート2-()・ルート3 (Y)ルート1-()・ルート2-()・ルート3		限界耐力計算・時刻歴応答解析 その他()				
(15) 構造	RC造・WRC造	階から 階まで	(16) 使用部位	PCa・HPCa			
	SRC造	階から 階まで		PC			
	S造	階から 階まで		CFT			
		階から 階まで					
(17) 認定材料	コンクリート						※ 受付欄
	鋼材等						
	免震・制振部材						
	その他						

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

コンクリート使用材料及び施工

基礎の種類		<input type="checkbox"/> 直接基礎 { <input type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> 独立基礎 } <input type="checkbox"/> 杭基礎 <input type="checkbox"/> 打込み杭()、 <input type="checkbox"/> セメントミルク工法による埋込み杭、 <input type="checkbox"/> オールケーシング工法、 <input type="checkbox"/> アースドリル工法、 <input type="checkbox"/> リバーササーキュレーション工法、 <input type="checkbox"/> 掘底杭工法()、 <input type="checkbox"/> その他(工法)										
コンクリート 強度 (N/mm ²)	使用工法					基準	<input type="checkbox"/> JASS5(年版) <input type="checkbox"/> その他()					
	使用部位	杭	基礎		階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階		
	設計基準強度											
	使用工法							軽量()種	モルタル	グラウト		
	使用部位	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階				
	設計基準強度											
塩害対策の有無		<input type="checkbox"/> 有(対策方法)			<input type="checkbox"/> 無		アルカリシリカ反応抑制対策					
設計かぶり 厚さ (cm)	部位	柱		梁		床		耐力壁		非耐力壁		基礎・擁壁
		屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	
	土に接しない部分	3+	3+	3+	3+	2+	2+	3+	3+	2+	2+	
	土に接する部分	4+		4+		4+		4+		4+		6+
検査計画	検査担当者(工事施工者)氏名						工事監理者 又は係員氏名		立会検査 の有無	常駐 非常駐		
	検査項目	打込前	<input type="checkbox"/> 試練 <input type="checkbox"/> 散水 <input type="checkbox"/> 配筋 <input type="checkbox"/> かぶり厚さ						有・無	常・非		
		打込中	<input type="checkbox"/> テストピース採取 <input type="checkbox"/> 打込速度・順序 <input type="checkbox"/> 締固め						有・無	常・非		
		打込後	<input type="checkbox"/> 養生方法 <input type="checkbox"/> 養生温度 <input type="checkbox"/> 打込欠陥						有・無	常・非		
	エア・スランプ試験等の代行業者名											
	供試体の養生場所											
	構造体コンクリート試験機関名		Fc36N/mm ² 以下の場合				都登録第		号			
		Fc36N/mm ² 超の場合				都登録第		号				
打ち込み欠陥部の検査方法等												
鉄筋使用材料及び施工												
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()		
	使用径	D ~D		D ~D		D ~D		D ~D		D ~		
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)		
		使用箇所										
		継手工法名(溶接材料)										
		継手施工会社(優良圧接業者)										
		S A 級 継手				有・無						
		A 級 継手		有・無		有・無		有・無				
				A 級		その他		SA, A級		その他		
	技量確認・施工前試験											
	冷間直角カッターの使用											
	試験・検査	外観検査(%)										
引張試験のみ(箇所/ロット)												
超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)												
引張試験併用												
引張試験機関名						都登録第		号				
非破壊検査機関名						検査者		都登録第		号		
外観検査実施者		工事監理者・工事施工者/検査機関				検査者		都登録第		号		
梁貫通孔補強	補強方法		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 在来工法 <input type="checkbox"/> 既製品()						<input type="checkbox"/> 無			
	構造検討		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無									
	使用部位											

レディーミクストコンクリート工場一覧

A	工場名称			B	工場名称		
	J I S 認証番号				J I S 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
C	工場名称			D	工場名称		
	J I S 認証番号				J I S 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
E	工場名称			F	工場名称		
	J I S 認証番号				J I S 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
G	工場名称			H	工場名称		
	J I S 認証番号				J I S 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		

コンクリート圧送ポンプ一覧

a	型番			b	型番		
	性能	cm	m ³ /h		N/mm ²	性能	cm
c	型番			d	型番		
	性能	cm	m ³ /h		N/mm ²	性能	cm

- (注意) 1 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 2 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 3 高強度コンクリートの場合は、Fc+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 4 生コン工場はその4による記号で表示する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。
 6 混和剤の商品名及び種類(AE剤、減水剤、AE減水剤、標準形、促進形、遅延形)などを記入する。
 AE減水剤等の化学混和剤以外の混和剤を使用する場合は、塩化物量が分かるものを添付する。
 (混和剤の種類によっては、塩化物試験に有害イオンとして作用するものがあるので、注意すること。)
 7 コンクリートの圧縮試験回数は、打込工区ごと、打込日ごと、かつ150m³(高強度はJASS-2003, 2009及び2015は300m³に1回で適当な間隔をおいた3台のトラックアジテータから1台につき3個ずつ計9個以上)又はその端数ごとに1回以上とする。
 8 圧送計画は、その4による記号で表示する。
 9 鉄筋の引張試験回数は、200箇所又はその端数ごとに1回以上とする。